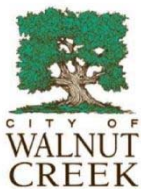


2018 北区青少年交流団

# ウォルナットクリーク市派遣報告



平成 30 年 8 月 3 日～13 日



東京都北区



## 目 次

1	交流団の派遣の趣旨・目的	P 1
2	事前の研修会	P 2
3	交流団名簿	P 4
4	ホストファミリー名簿	P 5
5	派遣日程	P 6
6	交流活動の概要	P 7
	交流団員報告書	P 1 4

本報告書の作成に当たって使用した写真は、  
北区が記録用として撮影した写真及び交流団  
員が撮影した写真を使用しました。



## 1 交流団の派遣の趣旨・目的

北区とウォルナットクリーク市は、同市内の私立学校セブンヒルズスクールとの「区立中学生海外交流事業」を実施し、長年にわたり相互に訪問交流を行ってきました。

この両自治体の交流をさらに発展させるため、平成29年4月25日に「パートナーシティ協定」を締結し、文化、教育をはじめ、幅広い分野の交流を通じ、相互理解と連携をさらに深めていくこととしました。

これを受けて、平成30年（2018年）8月3日（金）～13日（月）までの11日間、区内在住の高校生11名を同市へ派遣し、異文化への理解と国際的視野を持った人材を育成するとともに、英会話能力の習熟を図り、北区や日本の良さを伝え、友好親善の礎となることを目的とした「青少年交流事業」を実施することとなりました。



平成29年4月25日調印式（花川区長とウエデル市長）

## 2 事前説明・研修会

- 第1回説明会

日時 5月26日(土) 13:30~14:45  
会場 中央公園文化センター 学習室  
内容 交流団参加者紹介、ウォルナットクリーク市との交流経過について  
派遣日程の概要、今後の手続き・注意事項

- 第1回英語研修会

日時 5月26日(土) 15:00~17:00  
会場 中央公園文化センター 学習室  
内容 英語でのプレゼンテーション準備(プレゼンテーションとは)

- 第2回英語研修会

日時 6月9日(土) 14:00~16:00  
会場 中央公園文化センター 学習室  
内容 英語でのプレゼンテーション準備(北区の紹介)

- 第3回英語研修会

日時 6月23日(土) 14:00~16:00  
会場 中央公園文化センター 学習室  
内容 英語でのプレゼンテーション練習



• 結団式

日時 7月21日(土) 13:30~14:00

会場 中央公園文化センター 学習室



• 第2回説明会

日時 7月21日(土) 14:00~14:45

会場 中央公園文化センター 学習室

内容 渡航書類配布・説明、派遣にあたっての諸注意

• 第4回英語研修会

日時 7月21日(土) 15:00~17:00

会場 中央公園文化センター 学習室

内容 英語でのプレゼンテーションのまとめ



### 3 交流団員

(敬称略)

氏名		学年
岡田 雄大	Okada Yuto	高1
鬼澤 瑛	Akira Onizawa	高2
上本 祥衣	Sachie Kamimoto	高1
菅野 結月	Yuzuki Kanno	高1
北原 冬馬	Tohma Kitahara	高1
塩崎 鈴奈	Reina Shiozaki	高3
高杉 翠	Midori Takasugi	高1
高橋 優里子	Yuriko Takahashi	高2
西村 莉緒	Rio Nishimura	高1
長谷川 純弥	Junya Hasegawa	高1
松本 彩花	Ataka Matsumoto	高1



#### 4 ホストファミリー名簿

派遣団員	ホストファミリー
岡田 雄大	Moore
鬼澤 瑛	Glasky
上本 祥衣	Reid
菅野 結月	Levins Masterson
北原 冬馬	Moore
塩崎 鈴奈	Guehl
高杉 翠	Applegate Lerner
高橋 優里子	Levin Masterson
西村 莉緒	Clerempuy
長谷川 純弥	Pflieder Moore
松本 彩花	Larner

## 6 交流の概要（※は現地時間）

### 8/3 出国日

14：30 成田空港集合

17：00 サンフランシスコ国際空港へ出発！



成田空港

※10：45 サンフランシスコ国際空港着  
入国手続き後、空港よりバスにて市内視察＆ランチタイム



ゴールデンゲートブリッジ



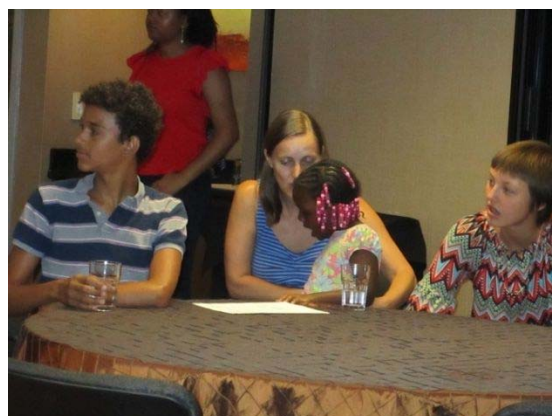
フィッシャーマンズワーフ

※15：00 ホテル着



## 8/4 ホストファミリーとの対面式

※10:45 ホストファミリーとの対面 緊張の面持ちでした。



## 8/6~10 ウォルナットクリーク市が運営するワークショップへの参加

※12:30~16:30

市が派遣生に用意してくれた2種類のワークショップに2グループに分かれて参加しました。

### ①フォトグラフィー

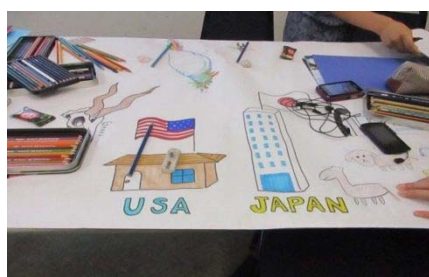
8月6日	月	<b>ワークショップ(1日目)</b> ・オリエンテーション (北区プレゼンテーション、日米学生パートナー決め) ・カメラの基本構造、操作を学ぶ→撮影 ・写真の批評 ・編集方法を学ぶ→編集をする
8月7日	火	<b>ワークショップ(2日目)</b> ・ペア/グループ別のプロジェクトのアイディアを出し合う ・撮影：Ruth Bancroft Garden (Field Trip)
8月8日	水	<b>ワークショップ(3日目)</b> ・ペアで編集作業をする ・お互いの写真を共有/批評する ・写真プロジェクト (Mail Art Project) を開始する
8月9日	木	<b>ワークショップ(4日目)</b> ・撮影：サンフランシスコダウンタウンにて (Field Trip) *ピア 24 の展示訪問予定 ・お互いの写真を共有/批評する
8月10日	金	<b>ワークショップ(5日目)</b> ・写真プロジェクト (Mail Art Project) の仕上げをする ・プロジェクト成果発表の準備 フェアウェルパーティー (ワークショップの成果発表を含む)





## ② アート

8月6日	月	<p><b>ワークショップ(1日目)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション (北区プレゼンテーション、日米学生パートナー決め)</li> <li>・絵の描き方、塗り方の基礎を学ぶ</li> <li>・絵の批評</li> <li>・スケッチブックをもとにスケッチブックプロジェクト (Sketchbook Project) のアイデアを出し合う</li> </ul>
8月7日	火	<p><b>ワークショップ(2日目)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>Bedford Galley, The World of Frida (Field Trip)</u></li> <li>・展示についてグループディスカッション</li> <li>・スケッチブックプロジェクトを開始する</li> </ul>
8月8日	水	<p><b>ワークショップ(3日目)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペイントを終了する</li> <li>・お互いの写真を共有／批評する</li> </ul>
8月9日	木	<p><b>ワークショップ(4日目)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>サンフランシスコ フォートメイソンの丘にて (Field Trip)</u></li> <li>*サンフランシスコを散策</li> <li>・お互いのスケッチを共有／批評する</li> </ul>
8月10日	金	<p><b>ワークショップ(5日目)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクトの仕上げをする</li> <li>・プロジェクト成果発表の準備</li> </ul> <p>フェアウェルパーティ (ワークショップの成果発表を含む)</p>



## 8/9 ウォルナットクリーク市庁舎等訪問 & Field Trip

※10:00~11:00 市庁舎訪問 警察署見学



※13:00~16:00 Field Trip (サンフランシスコダウンタウン)



## 8/10 フェアウェルパーティー

※16:30 Prep for party



生徒、スタッフ全員で会場設営&飾り付けを行いました。



ワークショップで作成した作品



※17:00 Party begins!



Student presentations !



プレゼンテーションは大成功  
研修で培ったスキルを最大限に発揮し  
北区の魅力を表現力豊かに伝え  
会場は大きな拍手で包まれました！





## 8/12 帰国日

※7:30 いよいよ帰国の日。朝早い時間にもかかわらず、多くのホストファミリーが見送りに来てくれました

目を潤ませた団員たちも「また、会おうね」「今度は日本に来てね」とそれぞれ約束をして、笑顔でバスに乗り込みました。



Let's meet again !



# 交 流 団 員 報 告 書

岡田 雄大

鬼澤 瑛

上本 祥衣

菅野 結月

北原 冬馬

塩崎 鈴奈

高杉 翠

高橋 優里子

西村 莉緒

長谷川 純弥

松本 彩花

※団員から提出された感想文を原文のまま掲載しています。

## 「ホストファミリーの紹介」

今回、私を受け入れて下さった家族はモアさん宅です。

お父さん、お母さん、長男のジェームズ、次男のジョーの四人です。

お父さんは、出かける際に必ず来るまで送ってくれたり、アメリカンジョークをしてくれたりしました。お母さんは、家族思いの本当にやさしい方で、会ったばかりだとは思えないくらい、丁寧に様々なことをしてくれました。弟のジョーは、とにかく正直で優しくかわいらしい11歳の小学生です。

そして、同い年のジェームズ。まず、彼は本当にクールな紳士で、初めて会った時正直緊張してしまいました。そして、彼は様々なことに興味を持ち我が日本語や、カンフーをやっています。

## 「報告書」初の海外での経験

私は、中学一年生の時、私達王子桜中学校にセブンヒルズの生徒が来て以来、ずっと渡米を夢見ておりました。今回、こうして北区の派遣生として参加できたことにまず感謝するとともに、期待で夢がいっぱいでした。いざ、サンフランシスコに着いたときは実感が無かったのですが、言語、標識などすべてが英語に代わっていて、ほんとにアメリカにいるのだと少し緊張しました。しかし、ホストファミリーとの様々な経験の中で、英語を使っていくうちにアメリカの生活にも慣れていきました。最初は、気難しい部分もあったのですが、自分の好きなスターウォーズの話をきっかけに仲が深まったと思います。ホストファミリーとは、トランポリンをしたり野球を見たりハイキングをしたり思い出をたくさん作り、母国語が異なるとは思えないくらいコミュニケーションをとることが出来ました。私は日本にいる間、英語を勉強するやりがいを失いかけていました。しかし、実際に言語ひとつで異国の友と交流をかわせると思うとさらにやりがいが増えていきました。人と人が話すことは基本の基本と言えますが日本ではどうでしょうか。初対面の人と交流している場面をあまり見たことがありません。日本人はアメリカのようなコミュニケーションがどんな人とも交せられるようになるべきだと思います。今回の派遣を通じて、コミュニケーションの大切さ、「日本が一番いい国だ」と決めつける先入観はない方がいい、新しい事にチャレンジしていくことの重要性を学びました。

このような素晴らしいプロジェクトに参加でき大変幸せに感じているとともにまたの機会があれば是非参加させていただきたいと思います。

## 「ホストファミリーの紹介」

私は Glasky 家という 4 人家族の家庭で生活しました。また、愛犬の Autumn も大事な家族の一員でした。母の Naomi さん、父の Mark さん、長男の Jacob 君、妹の Hannah さんは、皆にぎやかな人たちで、車内や家でも会話が途絶えることはありませんでした。また、全員が日本についての興味・関心を持っていて、日本の文化や生活習慣などをすでに調べて学習していて、知識も豊富に持っていました。特に Jacob 君と Hannah さんは、私のホストフレンドでもあり、バスケットボールやサイクリング、家ではボードゲームなどを教えてくれ、様々なときに気遣ってくれるやさしい性格を持つ人でした。Naomi さんは料理が上手で Mark さんと協力したりして、とてもおいしい晩御飯を用意してくれます。Mark さんは、私が生活している間も会社に行き勤務しているまじめな方でした。

## 報告書「北区青少年海外交流団に参加して」

私は北区の代表として、パートナーシップ協定を結んでいるサンフランシスコ・ウォナットクリーク市にホームステイをし、日本とアメリカの文化交流をした。そこで私は、アメリカと日本の人々の国民性の違いを改めて実感した。アメリカの人々は寛容で明るく話しやすい気質であるとよく言われるが、実際話してみると、その気質は人々が多くの話題に対して持論があるということが根源になっていると分かった。私が参加した写真のワークショップでは、同世代の高校生たちと写真の批評をしたが、彼らとその写真を評価する際の理由は、明確で具体的であった。ホストファミリーとの日常会話でも、自分の意志とその理由を論理的に説明しないと思考が伝わらず、生活環境になじむことができないと感じるが多々あった。そのようなことからアメリカの国民性を感じとることが出来た。我々日本人がそのような感覚を持つのは、寛容で明るい国民性という観点で劣っているという現実があるからであって、我々はそれを拒絶してはいけないと思った。また、彼らが物事を論理的に説明することができるのは、単に英語の能力が我々より高いことも一因として挙げられるのではないかと考えた。しかし、この考えは、日本語という母国語の世界的汎用性の低さと、世界の公用語である英語をうまく使えない自分への悔しさを深めていく一因にもなっていた。我々は、ある言語を使用しているように見えて、言語に使用されていたのかもしれないと思った。

生活している間、ホストファミリーだけでなく、様々な人たちから日本についての質問をされた。それは日本について多岐にわたる内容であった。そのような質問に答えると、彼らは自国と比較して日本の長所を褒めてくれた。ホストフレンド Jacob 君の父である Mark さんは会社に勤務しているため、日本企業の名前や政治関連のニュースはよく耳にしているが、最近の日本の流行は分からないので教えて欲しいと言っていた。私が最近の日本の SNS 文化について話すと、アメリカにも似たような流行があると返答してくれた。この時、私は私が「日本の鬼澤」として見られていると気づいた。単なる友人ではなく、そこに母国や自分の現在までのプロセスを伝えるという側面を持っていると感じた。それを満たすためには

語学だけでなく、史学や専門分野の知識も必要だと思い、学問の貴重さを心得た。

私は生活する間にこのような考えを持った。しかし忘れてはいけないのは、そのきっかけは楽しみから生まれていることだ。ホストファミリーと買い物や食事に行ったり、動物園や博物館に行ったり、日本ではあまり体験できないことを楽しんだ経験は非常に大切であり、この派遣での私の基盤となった。このような経験をさせてくれた Glasky 家の皆さんや、事業に関わってくださった沢山の方々に感謝したい。



## 「ホストファミリーの紹介」

今回の事業で私がお世話になったのは、Reidさんという方のお家です。ご家族は全部で7人いらっしゃいました。ホストマザーとホストファザーのお名前が順にRosieとJeffreyで、お2人とも学校で英語を教えている先生です。ホストフレンドは14歳のLeo、13歳のElondra、4歳の子が2人いて、男の子がAtticusで女の子がAriana、そして1歳のPrincessの5人です。LeoとElondraはそれぞれ8年生と7年生で、4歳の2人はプレスクールに通っています。Shindigという犬も飼われていました。このお家はフォスターファミリー(日本でいう養子縁組をしているご家族)だったので、血がつながっている人もそうでない人も、また、様々な人種の方がいらっしゃいましたが、全員がとても仲良く、そして元気なご家庭でした。

アメリカには偏った食生活の方も多いと聞いていましたが、Reid家ではとてもバランスの取れた食事をしていたのが印象的でした。生活リズムも健康的で、私は日本にいる時よりも体調が良かったです。また、ボードゲームや映画鑑賞、読書、水泳など多くの趣味を家族全員で共有していて、それらを楽しむ輪の中に、たくさん私を参加させてくださるような、優しい方たちでもありました。

## 「北区青少年海外交流団に参加して」

約10日間のスケジュールの中、私が北区からの交流団の一員として行った活動は大きく分けて2つです。1つ目はウォルナットクリーク市主催のワークショップへの参加、2つ目はホストファミリーとの交流です。

まず、ワークショップでの活動について述べていきます。フォトとアートの部門があり、私は後者に参加しました。日程は全部で5日間で、1～3日目は市のアートセンターで絵の描き方や色についてのレクチャーと個人作品の制作があり、4日目はサンフランシスコまで移動してのフィールドトリップが行われました。デイビッド・アイルランドというアーティストの作品がおかれた現代美術館に向かいました。まるでそこに人が住んでいるかのように演出された館内をめぐるながら、現代美術の様々な表現への見聞を深めました。5日目はフォト部門も合同で、5日間の総まとめの発表も含めたフェアウェルパーティーがあり、北区からの交流団員はここで北区を紹介するスピーチをしました。アートに関しての学びを楽しみつつ、アメリカの同年代の学生たちとコミュニケーションをとるという得難い経験をすることができました。日本と違う文化もある中で、同じくらいの年だと同じように楽しめること、感じられることもたくさんあったのが面白かったです。数か月前から練習してきた北区に関してのスピーチも、あまり緊張することなく伝えたいことを伝えられたように感じます。

次に、ホストファミリーとの交流についてまとめたいと思います。緊張していた私に皆さん優しく接して下さって、とても楽しいホームステイになりました。映画を見る、ボードゲームで遊ぶ、料理する、プールで泳ぐなど、たくさん楽しいことを一緒にさせていただきましたが、中でも楽しかったのはサンフランシスコの海から街までいろいろな場所を案内して貰ったこと

です。チャイナタウンでご飯を食べながら箸の使い方をホストフレンドに教えたり、街の建物の様子が日本とアメリカでどう異なっているかをホストマザーと話したりすることで、文化の違いを身をもって知るとともに、自分と違う生活や価値観の人と英語で話し、新しく自分の知っている世界を広げていけることの嬉しさ・楽しさを感じました。

この旅行では、この場には到底書ききれないくらいにたくさんの、新しく、そして実りある経験をさせていただきました。今回得たものの中で一番大きいものは、北区とウォルナットクリーク市にできた新しい家族・友人・知人たちです。今後もこの人々とコミュニケーションをとって多様な文化や考え方と関わり、自分の視野を広げていきたいです。





## 「2 軒の Family」

わたしは今回の海外派遣で 2 軒のホストファミリーのお宅に泊まらせていただきました。

メインだった Levins 家は、ホストファザーの Bill、マザーの Sue、大学が夏休みで帰省中の双子の 19 歳 Mark と Jack、そして犬の Finney。

家族仲がとても良い、素敵なお家庭でした。

Bill と Sue はとても温厚で親切な方々で、私の事を本当の娘のようにとても可愛がって下さり、色々な事にも、とても気をかけて下さいました。

帰国してしばらく経った今でもメールで近況のやり取りをしています。

もう一軒、2 泊だけでしたが、ホストファザーの Steven、18 歳の男の子 Harris、15 歳の女の子 Laynie と犬の Pako がいる Masterson 一家にも親切にいただきました。Harris は何年前、偶然にも区内の飛鳥高校に短期留学していたそうで日本語が少し話せました。ホスト期間中、会社の仕事を在宅にしてくれた Steven は色々な場所やお友達の家のパーティーに連れて行って下さいました。

2 軒のお宅とも、私が楽しく過ごせるようにとても色々な計画を立てて下さる優しい方々で、私は短期間でしたが、この方々の家族の一員なれた事をとても幸せに思います。

## 「言葉の壁を越えて」

私は今回の派遣に参加させていただいた事で、やはり自分の英語力不足を痛感しました。学校で英語は得意科目でしたが、生の現地英語での会話は、自分の伝えたい事が上手く表せず、意思がなかなか伝わらない事に何度も悔しい思いをしました。これからはもっと頑張って、いつか又ホストファミリーに会えた時には更なる会話力向上が目標になりました。このような、つたない英語力でのコミュニケーションでしたが、思い出に残っている事が沢山あります。

ホストファザーの Bill とは、マザーの Sue が仕事で忙しかったこともあり、退職されてずっとお家にいらしたので、2 人で色々な場所に出かける事が多くありました。スーパーに買い物に行ったり、日本と違い敷地がとても広く、普段あまり見られない動物もたくさんいるオークランド動物園に連れて行ってもらった事もとても新鮮な出来事でした。

日本から持ってきた材料でお好み焼きを披露しようとした時に、Levins 家が Masterson 家も招待してくれて、賑やかなお好み焼きパーティーになった事も楽しい思い出です。上手く出来たか不安でしたが、みんなとても美味しいと喜んで食べてくれたのが嬉しかったです。

また、滞在期間中に私の誕生日があったのですが、私と Harris が同じ誕生日だったという事もあり、2 軒のホストファミリー合同で、誕生パーティーをして下さいました。その際、日本語が出来る Harris を中心に、誕生日の歌をわざわざ日本語に換えて歌ってくれたり、言葉の壁を超えた心のつながりを感じました。フェアウェルパーティーの時まで、サプライズで誕生日のカップケーキのプレゼントをもらったり、色々な方々の細やかな親切の数々が本当にあたたかく嬉しかったです。



思い出はここでは書ききれない程沢山ありますが、その一つ一つが私にとってかけがえのない宝物となりました。ホストファミリーとの別れはとても辛く悲しく号泣でした。「あなたは私たちの家族の一員だよ」と言われた事が今でも忘れられません。本当に短い期間でしたが、初めて外国の家庭の中で過ごした時間はとても内容の濃いものとなりました。この経験は一生忘れる事はないでしょう。

この機会を与えて下さった事に本当に感謝しています。今この時期にしか感じられない素晴らしい経験が出来ました。アメリカの皆さんも日本に来るような機会があったら、ぜひ私も「おもてなし」で親切なお返しがしたいです。

これからも交流事業が続いて行けたら素敵だと思いました。



## 「ホストファミリーの紹介」

私、岡田君、長谷川君をホストしてくださったのは、Moore さんである。

家族構成は、Ms.Moore James Joseph(Joe) Moore さんのボーイフレンドである Sam お父さんはいるが、離婚をしている。ペットは犬三匹、猫一匹であるが、猫はガレージにおり、なかなか見ることはできなかった。

同い年の James はとにかく優しくしてくれて、話すと真面目なように思ったが、実は思ったよりやんちゃでやさくな性格だった。私は彼から、Chicken Tohma と呼ばれていた。これは私が鶏を抱いた時に、自らそう呼んだことがきっかけである。

Joe はとにかく素直で、自分が同い年の時とは、比べ物にならないくらいに純粋で優しかった。そして、彼は慣れないゲームの操作、遊び方を教えてくれた。

Moore さんはイギリスから来たらしく、英語がイギリスの発音で、学校とは違う発音で、興味深いながらも、少し戸惑う場面があった。そして、わたくしたちを温かく迎えてくれた。

Sam さんは料理上手で、ボーイフレンドが家にいることに最初疑問に思ったが、慣れてくるとどうも思わなくなる。

Mr.Moore は我々を野球観戦に連れしたり、ハイキングにも連れて行ってくださった。私の目が腫れた時は、薬を買ってきてくれた。本当にホストファミリーに恵まれた研修だった。

## 「Walnut Cleek 市に行ってきました。」

2018年8月3日私含めた11人はアメリカ合衆国カリフォルニア州にあるウォルナットクリーク市へと飛び立った。

飛行機の中で私は、10時間座ったままという洗礼を受けることになった。しかしそれを超えるとサンフランシスコ空港に着いた。着いて喜んだのもつかの間、バスでの移動となった。私は重度の車酔いで死にそうになり、昼ご飯もクッキーで済ませた。正直、サンフランシスコでの記憶はない。ホテルに到着したと思えば、わたくしはトイレに直行することになった。最初に入った部屋はトイレの個室であった。なにはともあれ落ち着いたが、夜ご飯がピザと聞いてさすがアメリカだと思ったのはいうまでもない。次の朝、ホストファミリーの Moore さんと出会い、岡田君と共に James 君がカンフーをやっている道場へ、車で向かうこととなった。そこで私は、車酔いという英単語を思い出して説明し、前の席に座ることとなった。

カンフーが終わり、おひるごはんにはハンバーガーを食べることになったが、

そこで頼んだポテトが多すぎて、アメリカの食の洗礼を受けた。

午後、長谷川君のホームステイ先の Mathew(Matt)君と長谷川君とでボーリングをして楽しんだ。そこでもピザを食べた。ほかには sky high というトランポリン場で遊んだりした。

家に着くと、犬が玄関におり尻尾を振って、我々を迎え入れてくれた。

そして、ワークショップが始まる日になった。私は不本意ながらアートのワークショップに入ることになった。しかし、決まったものに文句を言ってしまうのではないと思い参加した。案外面

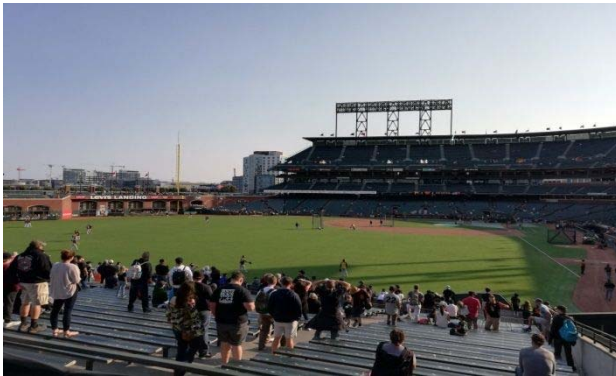
白いもので、私はフクロウを描き、題名を My pretty owl にしたところ、フェアウェルパーティーでネタにされてしまった。

待ちに待った野球観戦の日、私、岡田君、長谷川君（後から合流した）James Mr.Mooreさんと観戦した。日本と違い応援歌などはなく、選手が好プレーをしたときに、歓声が響くものだった。とても楽しかったが、海辺のため風が強く寒かった方が、印象に残った。ちなみに試合は5-10で負けてしまった。

最終日の夜、Mooreさんはたくさんのおみやげをくださり、本当に短かったと実感し、深夜Jamesと四人でゲームしたのは本当にいい思い出であった。

また機会があったら、一緒に遊びたいと思う。本当に楽しい11日間だった。この機会をくださった北区に、今後貢献していきたいと思う。

下の写真は野球場とJames君である（本人許可済み）



## 「報告書」

私がお世話になったホストファミリーには3歳になろうという男の子と5歳の女の子がいました。お父さんはオハイオ州、お母さんはコロンビア出身の方ということで、家では英語と併用してスペイン語も使われていました。日本の多くの家庭とは異なり、とても愛情表現にあふれていました。また、平日でも仕事からの帰りが早く、お父さんが積極的に家事に関わっていることも新鮮でした。

ホストファミリーにはいろいろな場所に連れて行ってもらいました。アウトドアが好きな家庭ということもあり、積極的に外での体験をすることができました。シャボット湖でモーターボートに乗ったり、サンフランシスコにフェリーを使いベイブリッジの下を歩いて行くなどと工夫していただき、とても貴重で楽しい時間を過ごすことができました。ほかにも動物園では山全体が動物園でゴンドラを使って移動するなど日本とは比べ物にならない規模でとても驚かされました。



ホストファミリーの兄弟

ワークショップでは私はアートを選択しましたが、導入として絵を使ったゲームをする、先生がその日連れてきたペットの鶏の絵を描くなど、日本の美術の授業として想像するものからは違い、面白かったです。また、日本人とアメリカ人でグループを作り意見を交換したり、その内容を全員で共有したりもしました。その話の中で、街中お店で無料で飲み物のお代わりができること、高校ですでに大学の単位が取れるコースがあることなどを知り、日米の違いを実感したり、意外と日本のアニメや温泉などの文化を知っていたり、興味を持っていてくれていることを知りました。とても有意義な活動になったと思います。



ウォールナットクリーク警察署



フェアウェルパーティー

最後にはフェアウェルパーティーが開催されました。一週間のワークショップを通して同年代のアメリカ人と仲良くなる機会は多くありましたが、パーティーの中でさらに仲良くなれた気がします。その中ではワークショップに関する受け答えや北区のプレゼンだったり、エンターテインメントとして缶バッジを自作できたり、カラオケをしたりしました。中でもアメリカ人、日本

人混合の数人でカラオケをしたのが楽しかったです。みんなで日本でも有名な「Let it go」や One Direction の歌をで歌いました。国境の差を感じることなくみんなで楽しめたことがとても心に残りました。

日本に帰ってきた今でもワークショップで仲良くなった友達とのやり取りが続けられていることが一番うれしいです。やり取りをメッセージやメールですること、その場合ごとに使う言い回しであったり、話しているだけでは知ることのできない、若者が使うスラングなどを知ることができてとても勉強になります。

2020 年には東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。私はボランティアとして少しでもオリンピック・パラリンピックに関わりたいと思っています。今回、聞き取ることはできても、自分の言いたいことをうまく英語で説明できないことを実感しました。足りないと感じた英語の能力を向上させ、克服した状態で2年後を迎えたいと思います。今回このプログラムに参加して観光などでは決して得られない最高の経験を得ることができました。この経験を生かして努力を重ね、成果につなげたいと思います。

この度は貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



## 「ホストファミリーの紹介」

私は今回、2家庭のホストファミリーにお世話になりました。

一軒目のラッセル家は私が2年前にアメリカに来た際にもお世話になった家庭でした。

ラッセル家は、お父さん、お母さん、ホストフレンドのクラウディア、妹のハナの4人家族で、家には4匹の可愛らしい猫と、やんちゃな犬が一匹、一緒に暮らす明るい家庭です。

二軒目のラーナー家は、お父さん、お母さん、ホストフレンドのカトリーナ、妹の2人の五人家族で、活発に動き回る犬が一匹、一緒に暮らしています。ホストマザーがメキシコ出身なので、たまに、電話などでスペイン語を話していました。

どちらの家庭も、わかりやすい英語でコミュニケーションをとってくれたり、いろいろな場所へ連れて行ってくれました。日本に帰るときにはお土産をたくさんもらえて、とても嬉しかったです。親切で優しい素敵な家庭で10日間過ごすことができ感謝の気持ちでいっぱいです。

「またね。」

私にとって今回で二回目となるカリフォルニアへの訪問。

中学二年生の時に海外派遣交流事業に参加させていただき、とても貴重な出会いや経験をすることができたことがきっかけで、このプログラムに参加しようと決意しました。

昨年ホストフレンドが日本に来てくれた時、自分から積極的にコミュニケーションがとれなかったり、日本のことをうまく説明できず悔しい思いをしました。なので今回は、その悔しい経験をばねに、悔しい思いをしない10日間を過ごそうと心に決め、アメリカへ向かいました。

先ほど述べたように、私は今回2家庭にお世話になりました。

一軒目のラッセル家は私が2年前にもお世話になった家だったので、ホストファミリーとの対面のときは緊張よりも再会を楽しみに思う気持ちのほうが大きかったです。クラウディアとは一年ぶりの再会でしたが、さらに大人っぽくなっていて驚きました。彼女とは同学年だったので、いろいろな話で盛り上がりました。好きなアーティストや行ってみたい国、日本とアメリカのことなど、今まで学んできた英語を活かし、会話を楽しみました。また、ショッピングをしたりビーチに行ったり、家で映画鑑賞をしたりと、一緒に多くの時間を過ごし、仲を深めることができました。

二軒目のラーナー家では、ほかのホストファミリーも交えてパーティーやBBQなどで楽しい体験をすることができました。また、私は以前からメキシコに行ってみたく思っていたので、ホストマザーからメキシコの話聞いて嬉しかったです。ホストフレンドのカトリーナとは、バトミントンと一緒にしたり、お互い習っているフランス語のことを話したりしました。カトリーナと話すのは今回が初めてだったので、数日で仲良くなれるか少し不安でしたが、あっという間に仲良くなることができ、とてもいい時間を過ごすことができました。

私はこの10日間を通して、踏みとどまらないで挑戦することの大切さを強く実感しました。以前の私は、相手からの質問に対して英語があっているか不安で、あいまいな答えで済ましてし

まうことが多くありましたが、今回は自分の英語を信じ、説明しにくかったらわかる単語やジェスチャーで伝えようと努力したら、相手にもそれが伝わり会話を楽しむことができました。努力の甲斐もあったのか、両方のホストファミリーから、「英語がうまいね」と褒められ、とても嬉しかったです。

この機会ですんだ多くのこと、たくさんの人との出会いを大切に、2020年の東京オリンピックに向けボランティアに積極的に参加していきたいと考えています。また、どちらのホストファミリーも東京オリンピックに来たいと言ってくれたので、また再会できる日を心待ちにしながらさらに英語力を高めていきたいです。



## 「ホストファミリーの紹介」

私は二家庭にホームステイさせて頂きました。一軒目は Levins さん一家。直接お世話になったのは2日間だけですが、その際はサンフランシスコ観光で、私と、一緒に泊まったもう一人の子が行きたい所に沢山連れて行ってくれました。

そして私がメインで泊まった Masterson さん一家。ホストマザーはおらず、ホストファーザーの Steven さんと一緒にいる時間が長かったです。Steven さんはとても優しく、私が友達の誕生日プレゼントを買いだと言ったら、店に何軒も連れて行ってくれました。「Yuri のしたいことを僕はしたいんだよ」と言ってくれて本当に嬉しかったです。更に、ホストフレンドの Laynie が通っているプール教室のイベントや、高校卒業記念パーティーにも連れて行ってくれ、日本では出来ないことを沢山経験させてくれました。また、犬の PACO がすぐなついてくれ、最終日には私とお別れだということが分かっているかのようにずっと震えていて、ずっとこの子と一緒に居たいと思ってしまいました。

## 「沢山の初体験を通して感じたこと」

私は、海外はおろか飛行機にさえ乗ったことがなく、全てが初めてのことだらけの11日間でした。しかし、生涯忘れられない11日間となりました。

実際行ってみると、沢山の発見がありました。まずはアメリカの生活についてです。話には聞いていましたが、食事の量が日本と全然違いました。ピザ一切れが大皿からはみ出すほどだったり、ジュースのMサイズは日本のLLサイズではと思うほど巨大だったり。特に驚いたのは、アメリカではドリンクのお代わりにができることです。日本では出来ない、とアートプログラムと一緒に話すと、とても驚かれました。食事だけではなく、生活リズム、家の作り、店の様子、テレビ番組、電車など、数えられない位日本と違う所がありました。

一番印象に残ったのは英語です。渡航前は、英語は得意だし、何とかなるだろうと思っていましたが、そう簡単にはいきませんでした。想像を上回る速さで皆話しかけてくれたからです。ディナーの時、食卓で家族皆話しているのですが、所々しか聞き取れず、たまに話を振られても曖昧な返事しか出来ず、悔しかったです。文字に起こせば絶対分かるような簡単な文でも聞き取れず、自分のリスニング力の未熟さを思い知らされました。一方、話すことに関しては、単語単語でもいいから伝えようと思い、したいことや頼み事をホストファミリーに伝えたところ、通じたのは本当に嬉しかったです。

今回の研修で一番強く感じたこと、それは自分が少数派になることの大変さや魅力でした。周りがアメリカ人しかいないなか、英語で意思表示をしないと自分の思いは伝わらないことは、当たり前ですが実際はかなり大変でした。日本語をなるべく使わないよう、携帯を日本から持って行かなかったため、一人でホームステイをする初日の夜は非常に心細く、辛かったです。しかし段々と生活に慣れると、アメリカと日本の違いに気づくことができ、一日一日がとても充実したものになりました。アートプログラムでも、最初は周りで話される英語が聞き取れず、アメリカ



人の生徒とも全然話せませんでした。互いの絵を褒めたりするうちに仲良くなり、今も連絡を取り合う仲になりました。普段通りではないからこそ、勇気を出して挑戦する大切さがより分かった気がしました。

この11日間で学んだこと、そして初海外を乗り越えた自信はこれからの宝になると思います。加えて自分の英語を更に成長させ、もう一度アメリカに行き更に多くの発見をし、新たな友達を作りたいです。

最後に、派遣メンバー、アメリカで関わった全ての方々、そして今回私を参加させてくれた両親に感謝します。本当にありがとうございました。



カリフォルニア名物クラムチャウダー



一緒に泊まった子とお好み焼きを作りました

「ホストファミリーの紹介」

ホストマザー Caroline  
ホストファザー Randy  
ホストフレンド Charlotte  
ホストフレンドの弟 Tristan

私がホームステイしたお家は、ホストマザーがフランスの方で家では家族みんながフランス語を話していました。また、お家には猫 2 匹、犬 1 匹がいました。ホストマザーは私にとっても優しくしてくれて、いつもいろいろな場面で気付かせてくれました。また、書道に興味を持ってくれて部活で大きな紙に書いた時の動画を見せた時はとても喜んでくれました。ホストファザーとは今の大統領のことについて話したり、学校では何をしているかを聞いてきてくれたりと沢山話しかけてくれました。また、車で色々なところに連れて行ってくれました。ホストフレンドである Charlotte は私より一つ年下ですが、とても大人っぽくてお洒落でクールな女の子でした。寝室が同じだったので部屋の中では私が分からないことを色々と教えてくれました。Charlotte は車の中や家ではよく友達と連絡を取っていました。なので、私はあまり話かけられず仲良くできなかったのが少し後悔しています。一方、弟の Tristan は私に積極的に話しかけてくれて、テレビゲームに誘ってくれたり、映画を見たり楽しく過ごせました。

「報告書」

8月3日から8月13日までの10日間、サンフランシスコのウォールナットクリーク市へ、北区青少年海外交流団の一員としてホームステイをさせていただきました。

1日目は約9時間のフライトを経て、サンフランシスコ国際空港に到着しました。その日は、バスでサンフランシスコ市内を視察しゴールデンゲートブリッジを見に行ったり、フィッシャーマンズワーフでクラムチャウダーを食べたりしました。その日は、ホテルで一泊しゆっくり休みました。次の日の朝、ついにホストファミリーと会う時が来ました。私はホストマザーと事前にメールで連絡を取り合っていました。しかし、ホストファミリーがどのような方々なのかは分からなかったのがとても緊張していました。しかし、私が自己紹介をした時ホストファミリーのみんなは笑顔で迎えてくれたので少し緊張がほぐれました。その日は、ホームステイさせていただく家へ行き、食事はどうするか、洗濯はどうするかなど生活に関する事を沢山説明してもらいました。またその夜にはホストマザーがわざわざ私のために市内の大学が主催している LEGALLY BLONDE というミュージカルを見に行こうと誘ってくれました。私はミュージカルが大好きなのでとても嬉しかったです。しかし、実際見に行くと劇中のキャストの方が話す速度が早かったので、自分の頭で訳して聞くというのがとても大変でした。また、日本とは違い、観客の人たちはとても自由で大声で笑ったり、時には劇中にブーイングサインをしたりと、その時初めて日本とアメリカの文化や習慣の違いについて肌で感じる事が出来ました。

8月6日から8月10日まで、市が主催しているワークショップに参加しました。私は、写

真の方で市内の同年代の子達とグループを作り一緒に作品を作り上げました。はじめは、慣れない英語で会話することに苦戦しましたが、日本が好きなのが沢山質問してくれたので会話が弾んで良かったです。8月9日は市庁舎訪問をし、同じ場所にある警察署を案内していただきました。また、警察署からお土産としてハンドスピナーをいただきました。日本じゃ絶対渡してくれないお土産だなと思いました。その後は、電車に乗ってダウンタウンにある写真展に行き、いろんな種類の写真を見ました。ワークショップ最終日の夜はフェアウェルパーティーをしました。その際、ワークショップの成果と北区のプレゼンテーションを披露しました。プレゼンテーションではあまり緊張せずに発表することができたので良かったです。

ホストファミリーと過ごす最後の日には、日本人の友達2人とホストファミリーと一緒に Santa Cruz Beach Boardwalk へ行きました。そこは、ビーチと遊園地が合体しているいい景色を見ながら楽しく遊ぶことが出来ました。

最終日の朝になり、ホストマザーとホストフレンドと車に乗りホテルまで向いました。最後にさようならとありがとうを言った時は辛かったです、夏休みにアメリカでホストファミリーと沢山の思い出を作れたことが本当に良かったです。この10日間は日本に帰りたくないくらい充実した生活を送っていた反面、自分の英会話力がどれだけ未熟かを実感させられました。今回の反省を生かしこれからの学校生活、将来に向けてもっと努力していきたいと思うことが出来ました。



## 「ホストファミリーの紹介」

私は二つの家庭にホストファミリーとして受け入れをしていただきました。ホストフレンドの名前はマシュー君とジェームス君で、彼らは昨年2017年に日本に来て私の家にホームステイしていたので会うのは二回目でした。マシュー君はアメリカ人で、三人兄弟です。ジェームス君はイギリス人で、二人兄弟です。犬を三匹飼っていました。二人とも家がとても大きかったです。マシュー君とジェームス君は仲が良く、一緒に遊びに行くことがありました。その時には二人の英語それぞれに特徴があり、発音やアクセントなども違っていることに気づきました。それらの違いも楽しむことができました。どちらの家庭のホストファザー、ホストマザーもとても優しくかったです。日本と比べると、いい意味で細かいことを気にしないので過ごしやすかったです。



## 「大切な友達」

私は今回のアメリカへの派遣で学んだことがいくつかあります。まず、一番大きく感じたことは言葉の壁は少しずつ乗り越えられるということです。私は今回のアメリカへの派遣が二回目となるのですが、前回は大きな言葉の壁を感じていました。それはまだ自分の英語力が未熟だったことや、積極的にコミュニケーションを取りに行けなかったからだと考えています。そしてその派遣が終わってからは、もっと英語を勉強しなければという思いが残りました。その時から約二年間経った今回の派遣では、前回に比べてとても楽しむことができました。学校の英語の授業を頑張っただけで受けたことから、現地の方々の話すことを聞き取れることが増えました。なので前回は行かないようにしていた、店員さんが早口のファストフード店にも挑戦してみました。そこではハンバーガーとナゲットのセットを買おうとしたのですが、ナゲットではなく、ポテトが二つ付いてきてしまいました。なので次にまた行く機会があればもう一度ファストフード店に挑戦したいなと思いました。そしてもう一つはホストフレンドとの交流です。今回の交流で私は二つのホストファミリーにお世話になりました。最初の四日間はマシュー君一家にお世話になりました。私は昨年2017年にマシュー君を日本に受け入れていたので、彼の家に行けることが本当に楽しみでした。そして

ホストファミリーもとても温かく私を受け入れてくれました。残りの日々はジェームス君に受け入れてもらいました。私はジェームス君のこともマシュー君と一緒に受け入れていたので、彼の家に行くこともとても楽しみでした。ホストファミリーは明るく受け入れてくれました。そしてここでの私の一番の思い出はみんなで大きなトランポリンの店に行ったことです。みんなでいる時間はとても楽しく、とても早く過ぎていくように感じました。

最後に、私はもしもう一度アメリカへ行く機会があった時のために英語の勉強を続けたいと思います。学校での勉強はもちろん、プラスして日常会話で使える英語も勉強したいです。





## 「ホストファミリーの紹介」

今回のホームステイは、中学2年生のときに参加した海外派遣で受け入れていただいたホストファミリーに受け入れていただきました。

ホストファミリーはDadとMomとホストフレンドのKatrina、3歳下の妹のTallulah、4歳下の妹のPenelopeの5人家族です。あとNachoという犬がいます。

ホストフレンドのKatrinaは私に対してゆっくり話してくれたり、分からないことがあるとひとつひとつ丁寧に教えてくれたり、私をアメリカ人の輪のなかにいれてくれたりと心優しき女の子です。Tallulahはスライム作りにはまっていてアメリカ流のスライム作りを教えてもらったり、ピンク色のワッフルを作ってくれたりと好奇心旺盛な女の子です。Penelopeは日本について一番質問してくれて、控えめだけどノリが良い女の子でとてもかわいかったです。

Dadは家族一面白くて何度も笑われ、Momは家族思いで私のこともたくさん気遣ってくれました。

たくさんの思い出と感謝しかありません。

このホストファミリーではないとホームステイを楽しむことが出来なかったと思うぐらいLarner家の全員が大好きです。

## 「ホームステイを通して」

8月3日から13日までの11日間、アメリカのウォルナットクリーク市にホームステイをしました。

今回のホームステイは前回受け入れて下さったLarner家に受け入れていただきました。

ホストファミリーは私が交流に参加するなら受け入れると言ってくださり、派遣後もずっと連絡を取っていて仲がよかったのでまたLarner家でホームステイできると知ってとても嬉しかったです。

前回の海外派遣ではGoogle翻訳を使わないと時々会話できなかつたり、すぐに自分の意見を言えなかつたりと自分の英語力のなさがとても悔しく、今回の派遣はその悔しさを晴らそうと参加しました。

学校で習う英文法のみだけではなく、少し日常英会話を勉強してから渡米しました。

そのお陰で今回は一度もGoogle翻訳を使わずに会話を楽しむことができました

対面式では「welcome back Ayaka」と書かれたメッセージボードと花をくださってとても嬉しかったですし、ホストファミリーがLarner家で本当に幸せだと思いました。

また家の玄関にもメッセージボードがあり、家族全員にも言われ初日から泣きそうでした。

夜はたくさんあるボードゲームから私でもできるボードゲームを選んでくれて笑いながらやっていました。特に楽しかったのが、ウォーターパークでKatrinaと二人で叫びながらウォータースライダーを滑ったこと、日本でいうお化け屋敷のようなどころに行ったときです。

二人とも怖いものが好きではないことも今回知りましたし、怖くて手をつなぎながら歩いたこ

とは今思うと最高の思い出です。

日本語について興味があり、「日本語ではなんていうの」という質問を何度も受け、英語にはない日本語の発音には驚いていました。

お土産に三姉妹分の浴衣を持っていき着付けてあげると「kawaii」と言ってくださって日本の夏の文化を知ってもらえてよかったです。

前回訪米したときに行ったことがない場所に連れていってくださったり、お土産を渡したときはハグしてくれたりとかホームステイでしか味わえない人情を日々感じていました。

言葉の壁や国の壁を越えても好きなものが一緒だったり、それについて語ったり、笑い話や学校の話が出来てうれしかったです。

常に笑顔に溢れた Larner 家でのホームステイは毎日が楽しく、日本に帰るのが惜しかったです。まだまだ書ききれないほどの思い出話があります。

ワークショップでは普段何気に使っている一眼レフについて深く学ぶことができよかったです。また同世代のアメリカ人と英語で交流することができ、写真を通して濃い時間を過ごす事が出来ました。

そして、今回の派遣で勉強したかいを実感でき、より英語を勉強したいと思いました。

これからも関係が途絶えないように連絡を取り合いあい、関係を深めていきたいと思います。

2020の東京オリンピックに来日すると言ってくださったので次は東京で必ず再会します。そのときにはもっと英語で会話できるよう頑張りたいです。

最後に、貴重な経験をさせていただいた北区に感謝します。

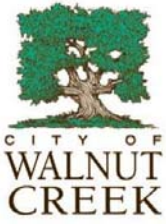






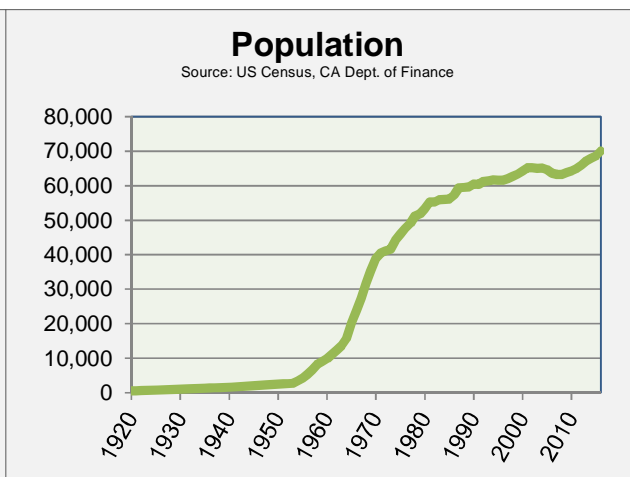
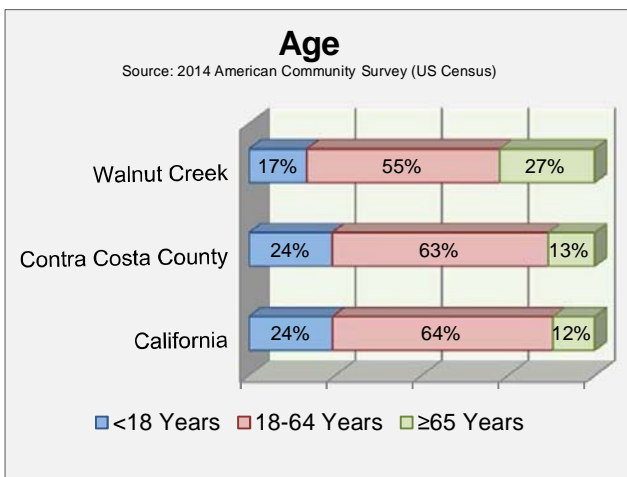
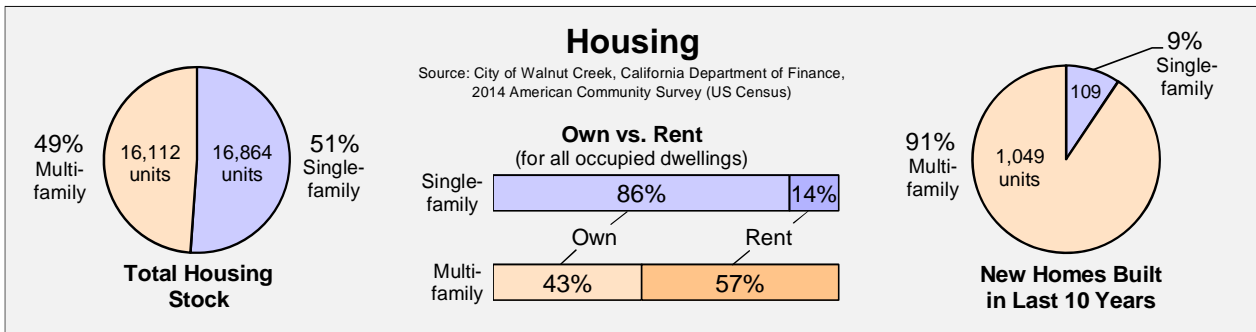
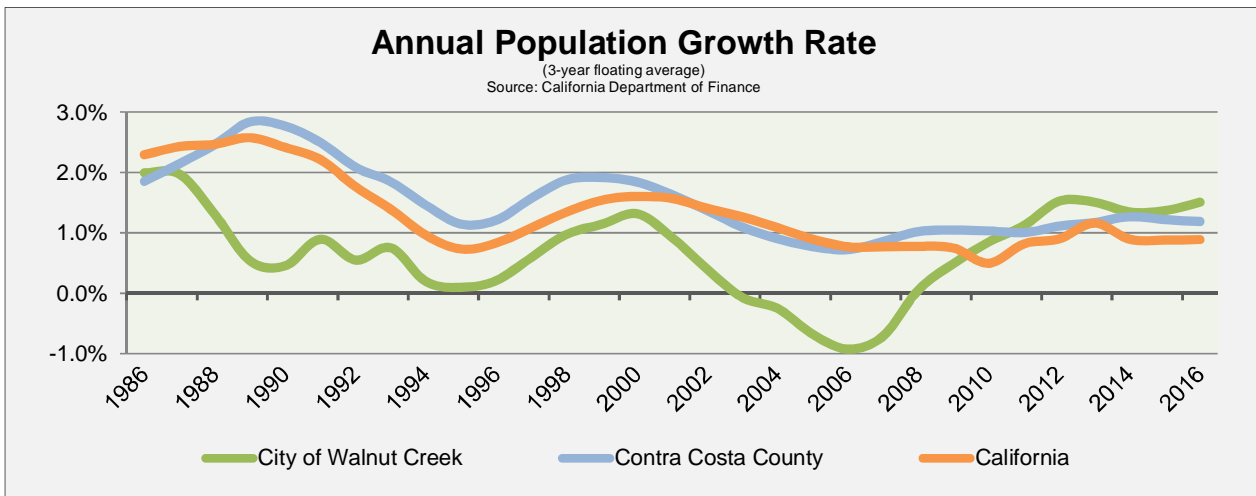
ウォルナットクリーク市のカリフォルニア州内の位置





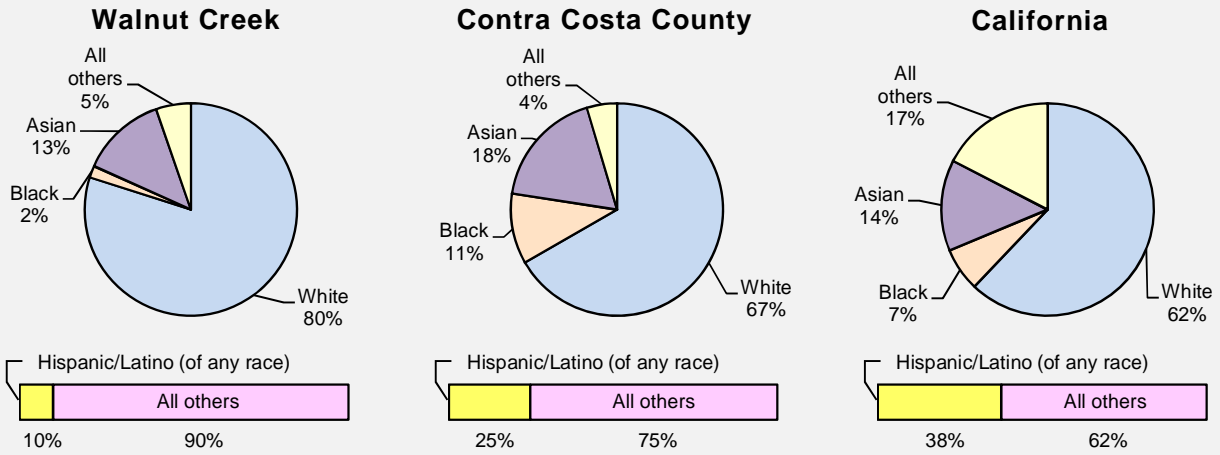
# City of Walnut Creek Demographics & Data 2016

	Walnut Creek	Contra Costa County	California
<b>2016 Population</b> <small>Source: California Department of Finance</small>	<b>70,018</b>	<b>1,123,429</b>	<b>39,255,883</b>



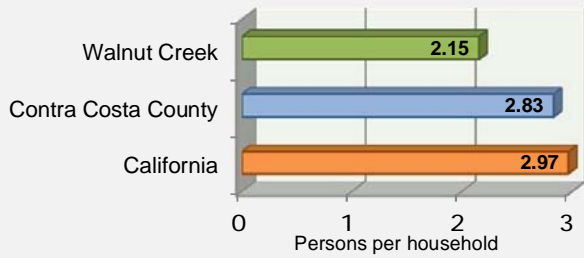
## Ethnicity

Source: 2014 American Community Survey (US Census)



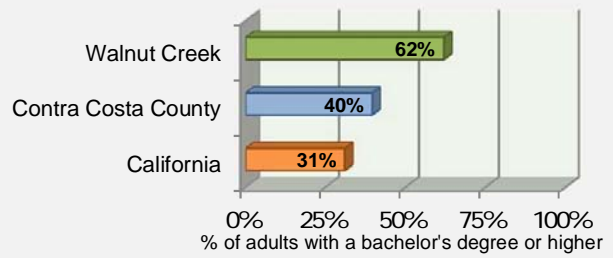
## Average Household Size

Source: 2014 American Community Survey (US Census)



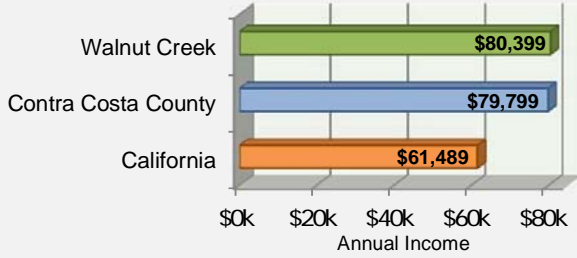
## College Graduates

Source: 2014 American Community Survey (US Census)



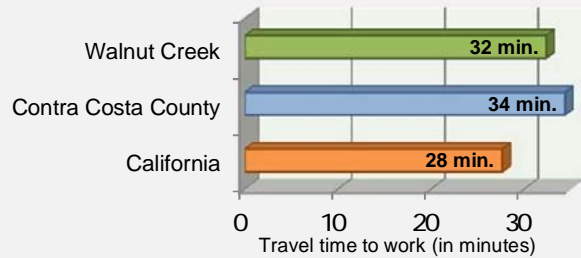
## Median Household Income

Source: 2014 American Community Survey (US Census)



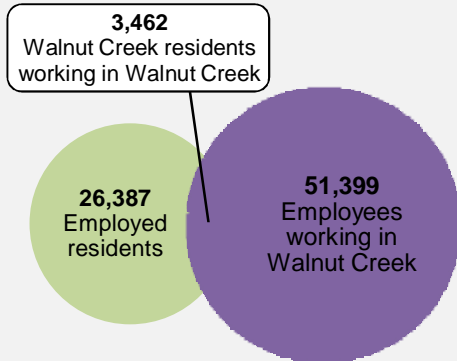
## Average Commute Time

Source: 2014 American Community Survey (US Census)



## Employment

Source: 2014 Longitudinal Employer-Household Dynamics (US Census) for primary jobs



### Top 10 Cities:

#### Where residents work

San Francisco (16%)  
Walnut Creek (13%)  
Oakland (8%)  
Concord (6%)  
San Ramon (4%)  
Berkeley (3%)  
Pleasanton (3%)  
Martinez (2%)  
Pleasant Hill (2%)  
San Jose (2%)

#### Where employees live

Concord (10%)  
Walnut Creek (7%)  
Oakland (4%)  
Antioch (4%)  
San Francisco (4%)  
Pittsburg (3%)  
San Jose (3%)  
Pleasant Hill (3%)  
Martinez (3%)  
San Ramon (2%)

平成 30 年度 北区青少年交流団  
ウォルナットクリーク市派遣報告書

発行日 平成 30 年 10 月

編集発行 北区総務部総務課

〒114-8508

東京都北区王子本町 1-15-22

Tel.03(3908)9308